

2024年度 入試問題分析シート

早稲田大学

商学部

科目

数学

総括

試験時間	90分	難易度(昨年比)	難化	昨年並	易化
満点(配点)	60点	分量(昨年比)	増加	昨年並	減少

〈総論〉

形式に変更はなく、空所補充型小問集合1題と記述式問題が2題の構成である。文系の入試問題としては極めて高度なセットであり、制限時間内に完答することはほとんど不可能である。

〈特記事項・トピックス〉

例年同様、西暦年号2024を用いた問題が含まれている。

〈合格への学習対策〉

数学ⅠAⅡB全分野の標準典型問題の深い理解が必須である。さらに、複雑な状況を読み取る読解力、煩雑な場合分けを実行する体力も養ってほしい。余力があれば数学Ⅲの内容にも踏み込んで学習しておくとう利な場合もある。重要分野としては「整数」「数列」「平面図形」「多項式関数の微積分」などが挙げられるが、近年の本学部では特に「空間図形」重視の傾向が見られる。パターンの習得にとどまらず、一見して題意の取りにくい問題を深く考察する演習を積んでおきたい。典型とされる問題については、誘導形式に依存せず自発的に解答を構成する力を養うため、日頃の学習においても途中の設定をカットして最後の設問をダイレクトに考えてみるのも良い練習になるだろう。

設問ごとの分析

問題番号	出題形式	範囲	分野・テーマ	特徴(内容分析・解答上のポイント)	問題レベル
1	空所補充				
(1)		I, A	不等式, 整数	絶対値記号を含む不等式を解く。	やや易
(2)		A, B	整数, 数列, 不等式	2つの不等式によって定義された数列を調べる。	難
(3)		II, B	数列, 対数	漸化式を解く。両辺の対数をとる定番問題。	標準
(4)		II	微分法, 積分法	放物線と2本の接線で囲まれた図形の面積を求める。典型問題であるから、落とせない。	やや易
2	記述式	A, II	確率, 三角関数	円周を24等分した点のうち4点をつないで四角形を作る。これらのうち面積が大きいものを探す。	やや難
3	記述式	I, B	2次関数, 空間ベクトル	2動点と2定点が作る2つの三角形の面積の和を最小化する。結論の予想はつくが、理由説明が困難。	難

「問題レベル」は、本大学・学部を志望している受験生の入試レベルを基準に、問題の難易度を5段階〔難・やや難・標準・やや易・易〕で判断しています。昨年対比ではありませんので、総括の難易度(昨年比)とは連動しません。